

# 令和5年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和5年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	182	62	43	37	6.3	14.5	8.7
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	182	55.2	52.9	49.6	43.9	47.2	13.9	3.8	13.9	8.9	9.4
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2 年	学校	183	62.5	47.2	45.3	33.1	45.2	10.5	4.0	13.6	13.2	12.2
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.2	11.1	8.6
	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1 年	学校	157	53.4	45.8	47.1	63.0	57.9	9.1	5.6	11.0	0.9	5.3
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	8.7	1.9	4.3
	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	9.6	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	182	89.8	91.3	108.1	81.2
	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	27.05	22.38	41.86	51.83	78.65	—	8.08	200.66	19.01	38.63
	大阪市	28.62	26.21	42.04	51.65	79.05	—	8.05	194.78	19.88	40.79
	全 国	29.02	25.82	44.16	51.22	78.07	—	8.01	197.02	20.40	41.32
2 年 女 子	学校	22.17	19.13	47.14	46.51	52.37	—	9.17	167.51	12.68	46.29
	大阪市	23.11	22.12	44.78	46.25	52.11	—	9.03	165.29	12.10	46.99
	全 国	23.15	21.62	46.27	45.65	50.70	—	8.95	166.34	12.43	47.22

調査結果から

【成果と課題】

○全国体力・運動能力、運動習慣調査

今年度の男子は、全国平均に対して、反復横跳び+0.61回、20mシャトルラン+0.58回、立ち幅跳び+3.64cmと3項目が上回った。一方、全国平均を下回った5項目のうち、特に上体起こし-3.44回、長座体前屈-2.3cmと大幅に下回る結果となった。体力の合計点では全国平均を-2.69ポイント下回り、大阪市平均を-2.16ポイント下回った。

女子は、全国平均に対して5項目で上回る結果となった。特に20mシャトルラン+1.67回、立ち幅跳び+1.17cmと大きく上回った。一方、全国平均を下回った3項目のうち、特に、上体起こしでは、-2.49回と大幅に下回る結果となった。体力の合計点では、全国平均を-0.93ポイント下回り、大阪市平均を-0.7ポイント下回った。

「運動やスポーツをすることが好きですか」の問いに、肯定的に答える割合が全国平均に対して男子±0%、女子-5.8%となった。

「一週間の総運動時間が60分未満の児童生徒」の割合は、全国の平均に対して男子-4.7%となり、女子-1.8%となった。

【今後に向けて】

女子については、少しずつ運動能力が上がってきている。男子については、積極的に体育活動に参加している。授業においては、運動量の確保のため、5分前集合が定着してきている。特に中学生の時期に発達しやすい持久力を鍛えるトレーニングを重点的に行っている。体育の授業以外にも、体育大会、球技大会、昼休みのボールの貸し出しなど、運動に対する興味・関心や、運動能力を高める取り組みを行っている。部活動加入率が、運動やスポーツに対して肯定的な意見を持つ生徒の割合につながっていると考えられるため、今後も積極的に部活動に参加する生徒を増やしていく。

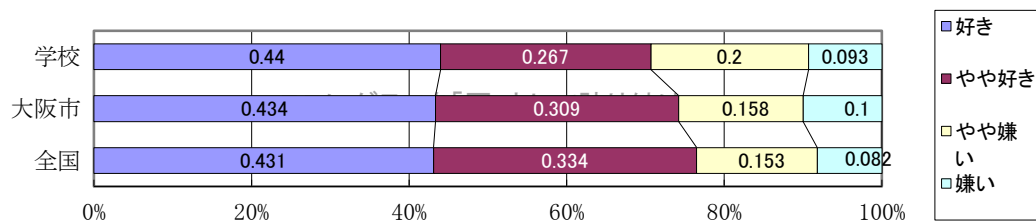
今回の調査で明らかになった課題の克服を目指すために、今後は体づくり運動を含めた授業内容の改善を図る。特に男女とも全国の平均に差があった上体起こしの結果から、補強運動や基礎体力向上のトレーニングを強化していく。生徒に合わせた個別指導やワークシートや学習者用端末を用いた協同学習を積極的に取り入れ、運動能力の習得を目指すとともに学校教育全体を通して、体力向上の取り組みを推進していきたい。

## 検証テーマ

### 本校の特徴的な結果(女子)

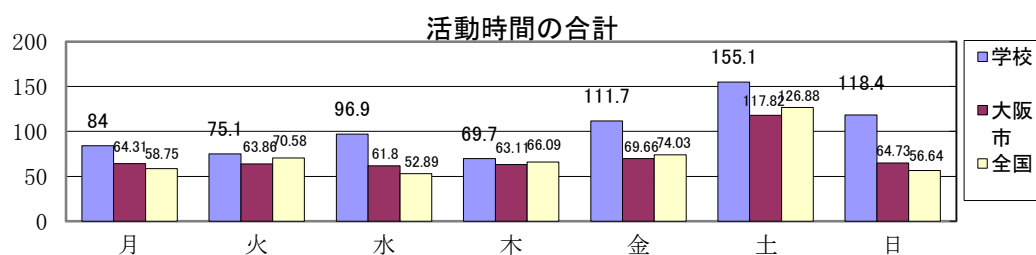
#### 検証項目1

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



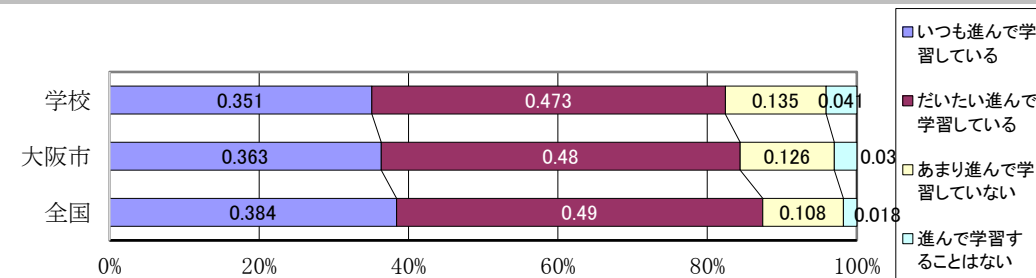
#### 検証項目2

学校の運動部や地域のクラブ活動、地域のスポーツクラブ、それ以外の運動やスポーツ、それぞれ何分ぐらい活動していますか。各曜日ごとに活動時間を記入してください。(学校の体育の授業を除く)



#### 検証項目3

保健体育の授業では、進んで学習に参加していますか。



#### 検証項目4

体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていますか。

